

# Control Moment Gyroscope に対する 出力レギュレーションを用いた非線形制御

2011SE075 井奈波徹

指導教員：高見勲

## 1 はじめに

Control Moment Gyroscope (以下, CMG) は, 力学的拘束条件 (角運動量保存則) と劣駆動システム (入力の数より, 制御する対象の状態の自由度の方が多) という特性をもつ非線形システムである. このようなシステムの多くは, 平衡点における線形近似系が可制御でないため, 線形制御をそのまま適用することができない. そこで, 本研究では, 非線形システムをハミルトンの正準方程式で表現し, 出力レギュレーション制御を適用することで, 保存量をもつシステムの部分的な安定化を保証する. Ishikawa, Sakamoto et al. [1] では, システムの角速度制御に対して成果があげられている. 本研究では, Gimbal3 の角度  $q_3$  を制御する状態として追加し, Gimbal2, Gimbal3 の角度  $q_2, q_3$  の角度制御を行う.

## 2 数理モデル

CMG には Rotor1 を回転させる Motor1 のトルク  $T_1(t)$  と Gimbal2 を傾ける Motor2 のトルク  $T_2(t)$  が存在する. Rotor1 の角度, 角速度を  $q_1(t), \omega_1(t)$ , Gimbal2 の角度, 角速度を  $q_2(t), \omega_2(t)$ , Gimbal3 の角度, 角速度を  $q_3(t), \omega_3(t)$  と定義する. 本研究は, Gimbal3 の角度制御を目的とする. CMG の Lagrangian  $L$  は, 以下のようになる.

$$L = \frac{1}{2} \{ J_B \omega_3^2 + (I_C + I_D) \omega_2^2 + (J_C + J_D) \omega_3^2 \cos^2(q_2) + (K_C + I_D) \omega_3^2 \sin^2(q_2) + J_D (\omega_1^2 + 2\omega_1 \omega_3 \cos(q_2)) \}$$

$I_D, J_D$ : Rotor1 の慣性モーメント [kg · m<sup>2</sup>]

$I_C, J_C, K_C$ : Gimbal2 の慣性モーメント [kg · m<sup>2</sup>]

$J_B$ : Gimbal3 の慣性モーメント [kg · m<sup>2</sup>]

(1) 式は,  $q_3$  を含まず, これは運動量保存の存在を表していることがわかる. また, 一般化運動量  $p_1, p_2, p_3$  は, 以下のようになる.

$$p = \begin{bmatrix} p_1 \\ p_2 \\ p_3 \end{bmatrix} = \frac{\partial L}{\partial \dot{q}} = \frac{\partial L}{\partial \omega} = \begin{bmatrix} J_D \omega_1 + J_D \omega_3 \cos(q_2) \\ (I_C + I_D) \omega_2 \\ (J_2 - J_1 \sin^2(q_2)) \omega_3 + J_D \omega_1 \cos(q_2) \end{bmatrix} \quad (2)$$

一般化運動量  $p_i$ , 角度  $q_i$  ( $i = 1, 2, 3$ ) より, 角速度  $\dot{q}$  は, 以下のようになる.

$$\dot{q} = \begin{bmatrix} \dot{q}_1 \\ \dot{q}_2 \\ \dot{q}_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \omega_1 \\ \omega_2 \\ \omega_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{(J_2 - J_1 \sin^2(q_2)) p_1 - J_D \cos(q_2) p_3}{J_D (J_4 - J_3 \sin^2(q_2))} \\ \frac{p_2}{I_C + I_D} \\ \frac{p_3 - \cos(q_2) p_1}{J_4 - J_3 \sin^2(q_2)} \end{bmatrix} \quad (3)$$

### 2.1 ハミルトニアン

(1) 式から運動方程式を導出した場合, 角度などのシステムの座標だけでなく, 座標の一階微分を含む拘束を受けるシステム (一階非ホロノミックシステム) となってしまう. この拘束を受けるシステムの制御は複雑となることが知られている. これを避けるためにハミルトニアンを用いて, 一般化運動量  $p_i$  を用いたシステムを表現する.

ハミルトニアン  $H_{cmg}$  を以下のように定義する.

$$H_{cmg} = p^T \dot{q} - L \quad (4)$$

Euler-Lagrange の運動方程式より,  $T = \begin{bmatrix} T_1 & T_2 & 0 \end{bmatrix}^T$  とすると,

$$\frac{\partial L}{\partial q} = \dot{p} - T \quad (5)$$

となり, 以上 (4), (5) 式よりハミルトンの正準方程式は,

$$\begin{cases} \dot{q} = \frac{\partial H_{cmg}}{\partial p} \\ \dot{p} = -\frac{\partial H_{cmg}}{\partial q} + T \end{cases} \quad (6)$$

となる. よって, 状態方程式は以下のようになる.

$$\begin{bmatrix} \dot{q}_2 \\ \dot{q}_3 \\ \dot{p}_1 \\ \dot{p}_2 \\ \dot{p}_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \frac{p_2}{I_C + I_D} \\ \frac{p_3 - \cos(q_2) p_1}{J_4 - J_3 \sin^2(q_2)} \\ 0 \\ \alpha \\ 0 \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \\ 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} T_1 \\ T_2 \end{bmatrix}, \quad (7)$$

$$\alpha = \sin(q_2) \frac{(J_5 p_1^2 - J_6 \cos(q_2) p_1 p_3 + J_6 p_3^2) \cos(q_2) - J_5 p_1 p_3}{(J_4 - J_3 \sin^2(q_2))^2}$$

$$J_1 = J_C + J_D - K_C - I_D, \quad J_2 = J_B + J_C + J_D$$

$$J_3 = J_C - K_C - I_D, \quad J_4 = J_B + J_C$$

$$J_5 = J_1 - J_2, \quad J_6 = J_1 - J_D$$

### 2.2 出力レギュレーション

以下の非線形系を考える.

$$\begin{aligned} \dot{x} &= f(x, w) + g(x, w)u, \quad x(0) = x_0 \\ v &= h(x, w) \end{aligned} \quad (8)$$

ここで、 $x \in \mathbb{R}^n$  は状態、 $u \in \mathbb{R}^m$  は制御入力、 $v \in \mathbb{R}^p$  はレギュレート出力を表す。及び、目標や外乱を表す信号  $w \in \mathbb{R}^q$  は、以下で定式化される外部システム (exosystem) から生成されるとする。

$$\dot{w} = s(w), w(0) = w_0 \quad (9)$$

上記モデルの線形近似系を、以下のように示す。

$$\begin{aligned} \dot{x} &= Ax + Bu + Pw \\ \dot{w} &= Sw \\ v &= V_x x + V_w w \end{aligned} \quad (10)$$

**仮定 1 (Neutral Stability)** 外部システム (9) の平衡点  $w = 0$  は Lyapunov 安定であり、 $w = 0$  の開近傍  $W \subset \mathbb{R}^q$  が存在し、 $W$  の各点は Poisson 安定である。さらに、 $S = \frac{\partial s}{\partial w}(0, 0)$  の固有値は、すべて虚軸上にある。

**仮定 2 (Linear Stability)** 組  $(\frac{\partial f}{\partial x}(0, 0), g(0, 0))$  は可安定である。

**定理 1** 以上の仮定が成り立つとする。このとき、出力レギュレーション問題の可解となるための必要十分条件は、原点近傍の  $w \in W$  で定義された十分滑らかな関数 (写像)  $\pi : W \rightarrow \mathbb{R}^n, c : W \rightarrow \mathbb{R}^m$  で  $\pi(0) = 0, c(0) = 0$  と以下のレギュレータ方程式を満たすものが存在することである。

$$\begin{aligned} \frac{\partial \pi}{\partial w} s(w) &= f(\pi(w)) + g(\pi(w))c(w) \\ 0 &= h(\pi(w), w) \end{aligned} \quad (11)$$

本研究では、制御量  $v$  を以下のように選び、平衡点  $x^*$  で線形近似を行い線形係数行列を導出する。

$$v = [q_2 \quad q_3 - \frac{\pi}{2} \quad \frac{p_2}{I_C + I_D} \quad -p_3 + \cos(q_2)p_1]^T \quad (12)$$

$$x^* = [q_2^* \quad q_3^* \quad p_1^* \quad p_2^*]^T = [0 \quad \frac{\pi}{2} \quad 0 \quad 0]^T \quad (13)$$

各線形係数行列は、以下のように定義される。

$$\begin{aligned} A &= \frac{\partial f}{\partial x}(0, 0), \quad P = \frac{\partial f}{\partial w}(0, 0), \quad B = g(0, 0), \\ S &= \frac{\partial s}{\partial w}(0), \quad V_x = \frac{\partial h}{\partial x}(0, 0), \quad V_w = \frac{\partial h}{\partial w}(0, 0). \end{aligned} \quad (14)$$

### 3 制御系設計

本研究では、出力レギュレーションの枠組みを用いて、サーボシステムを構成し、駆動源のない Gimbal3 の角度  $q_3$  の目標値追従制御を行う。

(10) の拡大系を以下のように示す。

$$\begin{bmatrix} \dot{x} \\ \dot{w} \\ \dot{z} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} A & P & O \\ O & S & O \\ V_x & V_w & O \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ w \\ z \end{bmatrix} + \begin{bmatrix} B \\ O \\ O \end{bmatrix} u \quad (15)$$

$$x = [q_2 \quad q_3 \quad p_1 \quad p_2]^T, \quad w = p_3, \quad z = \int_0^T v \, d\tau$$

偏差  $\tilde{x}, \tilde{z}, \tilde{u}$  を以下のように定義する。

$$\tilde{x}_e = \begin{bmatrix} \tilde{x}(t) \\ \tilde{z}(t) \end{bmatrix} := \begin{bmatrix} x(t) \\ z(t) \end{bmatrix} - \begin{bmatrix} x_\infty \\ z_\infty \end{bmatrix}, \quad \tilde{u} := u(t) - u_\infty \quad (16)$$

以上より、状態変数を  $\tilde{x}, \tilde{z}$  とする拡大偏差システムは、以下ようになる。

$$\mathcal{P} : \begin{cases} \dot{\tilde{x}}_e(t) = A_e \tilde{x}_e(t) + B_e \tilde{u}(t) \\ v(t) = V_e \tilde{x}_e(t) \end{cases} \quad (17)$$

$$A_e = \begin{bmatrix} A & O \\ -V_x & O \end{bmatrix}, \quad B_e = \begin{bmatrix} B \\ O \end{bmatrix}, \quad V_e = [-V_x \quad O]$$

実験において、極 ( $A_{cl} := A_e + B_e K_e$  の固有値) を原点から離れた位置に配置すると、Gimbal3 が大きく振動する。そこで、LMI に基づく制御系設計を行い、最適レギュレータ問題の評価関数  $\tilde{J}$  を導入する。重み行列  $Q_e \geq 0, R_e > 0$  を定義し、その評価関数  $\tilde{J}$  を最小化するようなコントローラを設計する。 $A_{cl} := A_e + B_e K_e$  の固有値  $\lambda$  を中心  $(-3, 0)$ 、半径 3 の円領域に配置するという拘束条件の下で、評価関数を最小化するようなコントローラのゲイン  $k$  を設計し、以下の LMI 条件を得る。また、 $Q_e = Q_h^T Q_h$  を満足する正方行列であり、 $Q_h = \text{diag}\{\sqrt{q_1}, \dots, \sqrt{q_n}\}$  である。

$$\begin{aligned} & \begin{bmatrix} q_c \text{He}[A_e X + B_e F] + (r_c^2 - q_c^2) X & A_e X + B_e F \\ * & X \end{bmatrix} > 0, \\ & \begin{bmatrix} -\text{He}[A_e X + B_e F] & * & * \\ \frac{Q_h X}{R_e F} & I & * \\ O & O & R_e \end{bmatrix} > 0, \quad \begin{bmatrix} Z & * \\ I & X \end{bmatrix} > 0 \end{aligned} \quad (18)$$

### 4 シミュレーション

設計した制御則を用いてシミュレーション・実験より理論の有用性を検証する。初期値を以下のように設定し、シミュレーション・実験結果を図 1, 2 に示す。以下の、図 1, 2 より、Gimbal2,3 の角度は目標値に追従していることがわかる。

$$x(0) = [0 \quad 0 \quad 0 \quad 0]^T, \quad w(0) = 0.$$

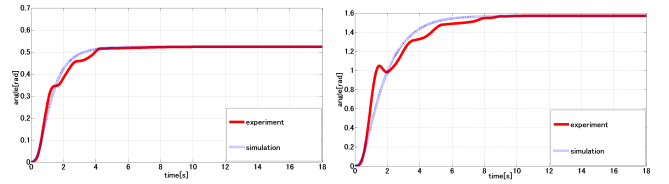


図 1 Gimbal2 angle

図 2 Gimbal3 angle

### 5 おわりに

本研究の成果として、Hamilton の正準方程式より、Gimbal3 を制御する状態として追加した CMG の状態方程式を導出した。設計した制御則を用いてシミュレーション・実験より理論の有用性を検証した。

### 参考文献

- [1] K.Ishikawa, N.Sakamoto and D.Shiraki: Design of partial optimal control for a nonlinear system and application to the attitude control of a control moment gyro; *SICE Annual Conference*, 2013, pp.1865-1871.